



明るく たくましい 明世の子

ビカリア

令和6年度
瑞浪市立明世小学校
NO. 6
R6. 8. 28

新しく明るい世をつくる力を

ヒグラシが鳴く季節となりました。今回は歴史に目を向けてみたいと思います。

まず、明世という名前の由来と小学校の歴史から。明世という地名は、明治30年の町村分合に伴って生まれました。明治の「明」、30を表す漢字「卅」を、「世」に変え、明るい世を創り出すという意味で、当時の、山野内村、戸狩村、月吉村、河合村が合併して明世村になったと記録されています。明治39年、村内の3つの尋常小学校が合併され、明世尋常小学校が創立されました。明治41年に山野内西洞（現太陽社）に新校舎落成、開校。約70年後、老朽化と道路拡張のため移転、昭和52年、今の山野内大平に新しく建設され、現在に至っています。この間に、河合村は土岐市に入り、和合の子どもたちは明世小学校に通うようになったという経緯があります。

では、古いところから、見ていきます。校区や近隣の地域からは、千六百万年前のビカリアや数百万年前のパレオパラドキシアの化石が産出されます。2022年に発見されたパレオパラドキシアの化石は、サメにかじられた跡やフジツボが住み着いた跡を見ることができる、貴重なものです。

次は、数千年前、縄文時代の遺跡です。（以降「瑞浪市の歴史」昭和46年 編集発行瑞浪市を参照）月吉小屋山や山野内寺山にも遺跡があります。弓矢に使う石鏃、石槍、石斧、縄文式土器（寺山）などが見つかっています。

そして、古墳時代。荒神塚古墳は、二段式墳丘で県内最大規模の円墳であることから、東濃地方の有力者であると想像できます。また、横穴古墳も市内各所にあり、戸狩、月吉、和合にも、ムラがあったと考えられます。土器（須恵器）や鉄器、装身具、石器などが出土します。

瑞浪の奈良時代・平安時代は、土岐郡家の所在地で、中世になると、源氏の子孫が美濃守となって土岐氏を名乗り、のちに守護職を任せられます。二百年ほど続いた守護職土岐氏でしたが、家臣の斎藤道三に滅ぼされることになります。その後、この地域は織田氏と武田氏の争いに巻き込まれ、武田軍が戸狩城山に砦を築きましたが、織田方が奪回します。

瑞浪は街道と深い関係にあり、神話時代に日本武尊が釜戸・土岐・寺河戸・戸狩・山野内経由で熱田へ。平安期までの東山道として、柄石・月吉・土岐・釜戸を通る道がありました。中山道（上街道）と下街道（伊勢や尾張に至る）をつなぐ加茂街道が月吉を通り、交点にあった和合は、宿屋・酒屋・呉服屋などで栄えた時期があります。そして、明治以降には鉄道と国道19号（旧道）が、そして中央自動車道も、明世を通っています。



化石山に「日中不再戦の誓い」の碑があります。入口に「第二次世界大戦末期、強制連行された中国人が航空機の地下工場建設に従事し、三十九名が尊い生命を失いました。再びこのような悲惨な戦争をくりかえさぬよう、日中友好と世界平和を祈って、昭和四十二年（一九六七）九月に墓碑が建立されました。」と説明があります。1945年4月5日に330人の中国人が連れてこられた。過酷な労働と栄養失調から、終戦までに39名が死亡。あまりのひどさに、地域の老婆が干し芋をあげたが、双方ともに罰を受けたという記載があります。（「戦後70年 語り継ぐ戦争の記憶 加藤明編」）

私たちは、地域や歴史に誇りと広い見識をもち、これからの新しい世をどのようなものにしていくか考え、周り対話しながら、よりよい生き方を導き出して実行していかなければなりません。